

平成 23 年 6 月 2 日

平成 23 年度 第 1 回工学部教育企画委員会 FD 部会 議事録

日 時： 平成 23 年 6 月 1 日(水) 14:30 ~ 15:30
場 所： 理工学研究科棟 2 階 工学部第 1 会議室 (北)
出席者： 渋川 (部会長), 柿崎 (副部会長), 加藤, 久野, 佐々木, 王, 内田 (代理)
佐藤学部長, 重原副学部長
門平, 太田 (学務係)
欠席者： 谷治

審議事項

1. 平成 23 年度の FD 活動計画について

平成 23 年度国立大学法人埼玉大学年度計画を確認し, 本年度の FD 部会活動は原則として平成 19 年度制定の工学部 FD ガイドラインに則って進めることとした。

2. FD ガイドラインに基づく活動

①教員相互の授業参観 (オープンクラス) について

本年度は後期に実施することとした。時期は 11 月中旬の 2 週間を目途とするが, この期間に多くの教員が不在になるような学会等がないかどうかを次回会議までに各学科で確認することとした。昨年度は授業参観に参加した教員が少なかった学科があるので, 各委員は学科教員に対して積極的に参観するよう要請することを部会長より求められた。

また, 本年度は全学科ですべての開講科目を授業参観の対象とすることを確認した。

②シンポジウムについて

開催時期は例年通り 12 月初旬とした。なお, 詳細な日程は次回の会議以降において決定する。

部会長より, ゆとり教育世代の学力低下が従来のレベル・方法での授業の進行を困難にしており, 留年率が上昇する傾向があることが紹介され, この問題への対応を考えることをシンポジウムのテーマの候補としてはどうかとの提案があった。これに対していくつかの学科からは, 同様の問題が生じておりシンポジウムテーマの一つの候補として考えられるとの意見があったが, 特に最近の学生に限った傾向ではないとの発言もあった。本年度のシンポジウムのテーマに関しては, 次回までに適切な案を考えてくることとし, 継続して検討することとした。

③授業進行の手引について

各委員により内容を精査し, 次回の会議で改訂の有無を決定することとした。

④学生による授業評価について

部会長より, 学生に責任を持った評価を促すことを目的として一度記名式で行ってみるといふ案について意見が求められたが, むしろ学生の本音を聞くことができなくなるなどの弊害のほうが大きいという発言があった。多くは現状の方法でよいとの意見であり, 現行の方法で今年度も実施することを確認した。

FD ガイドラインに「4-5 年ごとに授業評価結果を調査・解析し, その結果を公開する」と定められており, 2006 年度以降はこれが実施されていないことから, 今年度は FD 部会で調査・解析を行ない, その結果を公開することとした。なお, 実施方法および公開の時期等に関しては次回検討する。

現状では授業評価結果は学生に開示されていないが, 何らかの形で開示する必要があるのではないかと指摘があった。各教員はシラバスに授業評価結果を受けての改善内容を記載することになっているので, これを徹底させることによって対応することとした。

3. TA について

本年度は, 昨年度末に改訂した様式により, 各学科の TA 実施報告書を FD 部会で取りまとめることを確認した。

4. 次回の会議日程について

7月19日以降7月末日までの間に開催することとし、詳細はメールにて調整することとした。

以 上

平成 23 年 7 月 28 日

平成 23 年度 第 2 回工学部教育企画委員会 FD 部会 議事録

日 時： 平成 23 年 7 月 28 日(木) 10:40 ~ 11:15
場 所： 理工学研究科棟 2 階 工学部第 1 会議室 (北)
出席者： 渋川 (部会長), 柿崎 (副部会長), 加藤, 久野, 佐々木, 王, 谷治
佐藤学部長, 重原副学部長
門平, 太田 (学務係)

報告事項

1. 第 1 回全学 FD 研究会報告

渋川部会長より, 7 月 21 日に開催された第 1 回全学 FD 研究会の報告があった。報告内容は以下の通りである。

教育学部から「教育学部新任教員研修会について」と題する話題提供が 30 分程度あり, これについての質疑応答の後, 各学部の FD 部会代表者より, 昨年度の活動報告と今年度の計画の紹介が行なわれた。年度内に第 2 回研究会が予定されているが, 日程等は未定である。

審議事項

1. FD ガイドラインに基づく活動

①教員相互の授業参観 (オープンクラス) について

実施日程について審議し, 本年度は例年に倣って 11 月 7 日~18 日に行なうこととした。なお, この期間に多くの教員が不在になるような学会等がないことを確認した。

②シンポジウムについて

審議の結果, 本年度のシンポジウムのテーマは「ゆとり教育世代の大学教育 (仮題)」と決定し, 教育学部のしかるべき先生に講演を依頼することにした。このほかの具体的な内容と進め方については, 部会長と副部会長が相談の上, 次回委員会までに原案を作成し, それに基づいて検討を行うこととした。なお日程については, 本年度が学長・研究科長・学部長選挙の年にあたっており, 選挙日程が未定であるため, その日程が確定するのを待って次回の会議以降において決定する。

③学生による授業評価について

2007 年度以降昨年度までの学生による授業評価の報告書を本年度内に作成し, FD 部会のホームページ上に掲載することとした。なお, 報告書の原案は部会長と副部会長とで作成し, それに基づいて検討する。

これに関連して, 授業評価アンケートの質問項目が今年度変更された点について意見交換がなされた。

④授業進行の手引について

加藤委員より機械工学科 FD 委員会での検討結果の報告と, 修正が必要と思われる部分の指摘がなされた。審議の結果, 以下の点を修正し, 可及的速やかに修正版を作成して配布することとした。

- (1) 「部屋に戻ったら・・・」の項で, 「学務係への連絡について」が 2 度記載されているので, 後出のほうを削除する。
- (2) 「初回授業の開始直後に・・・」の項で, 「出欠の確認方法と成績評価方法などについて」の項目での「●出欠の確認方法と成績評価方法 (試験・レポート) を説明する」は「●出欠の確認方法と成績評価方法 (小テスト・レポート・期末試験など成績評価に関する方法とそれらの配点) および成績評価基準について説明する」に変更する。

2. 次回の会議日程について

9 月下旬以降 10 月初旬までの間に開催することとし, 詳細はメールにて調整することとした。

以 上

平成 23 年 10 月 19 日

平成 23 年度 第 3 回工学部教育企画委員会 FD 部会 議事録

日 時： 平成 23 年 10 月 18 日(火) 10:40 ~ 11:35

場 所： 理学部 2 号館 2 階 理学部第 2 会議室

出席者： 渋川 (部会長), 柿崎 (副部会長), 加藤, 久野, 佐々木, 王, 谷治
重原副学部長 門平, 太田 (学務係)

審議事項

1. FD シンポジウムについて

①シンポジウム案について

シンポジウムは 12 月 2 日(金) 午後 1 時~3 時の予定で開催することが渋川部会長から提案され、了承された。本年度のシンポジウムのテーマは、前回の委員会では「ゆとり教育世代の大学教育(仮題)」と決定し、教育学部のしかるべき先生に講演を依頼することにした。しかし、その後佐藤学部長より教育学部長にこの件を依頼した際、このテーマで講演していただくことはゆとり教育の捉え方にいろいろな考えがあることなどにより難しいことがわかった。そこで渋川部会長より、教育学部長に推薦された岩川直樹教授と話し合った結果に基づいて、「コミュニケーションと学力について考える」(仮題)というテーマでシンポジウムを行なうことが提案された。これについて審議した結果、タイトルから内容を理解するのは難しいことが指摘され、わかりやすい解説を加えることを条件に了承された。講演内容の解説(紹介)については渋川部会長が改めて岩川教授と相談し、ポスターに掲載する文案を作成して委員会に諮ることとした。このほかのシンポジウムの具体的な進め方については、部会長と副部会長に一任することにした。

②ベストレクチャー賞について

昨年度の授業評価結果に基づいてベストレクチャー賞候補者が 1~4 のカテゴリーごとに評価点順に 1 位から 4 位まで示された。規定に従って評価点が 1 位の教員をベストレクチャー賞の該当者として工学部長に推薦することとした。なお、カテゴリー 4 (演習) では情報工学科の教員全員が担当する情報工学総合演習が 1 位となった。過去においては、このように多数の教員が担当した授業が受賞したケースはなかったが、選考基準には担当者数についての規定はないので、このまま推薦することとした。

2. 教員相互の授業参観 (オープンクラス) について

今年度は 11 月 7 日~18 日の 2 週間にわたって、工学部の全授業を参観科目として実施することを確認した。なお、非常勤講師が担当する科目についても FD 委員より授業の参観をお願いすることを改めて確認した。

授業参観のアンケートの回収は、電子ファイルに記入し、メールに添付して学務係に提出する形をとることとした。提出状況については随時各学科の FD 委員に報告し、提出数が少ない場合は FD 委員より学科の教員に提出を促すこととした。

3. 全学 FD ガイドラインについて

7 月 21 日に開催された全学 FD 研究会において経済学部 FD 委員より、全学 FD ガイドラインには年 2 回研究会を開催すると規定されているが 1 回でよいのではないかとの発言があったことを受けて、全学教育企画室より全学 FD ガイドラインの見直しについて意見集約を求められた。そこでこれについて意見交換を行なったが、研究会がどのような内容・形式で実施されているかを承知していない委員が多いことから、渋川部会長に企画室への回答を一任することとした。

4. その他

①学務係より、前期科目の授業評価結果が学科長に配布される予定であることが報告された。

②次回の会議日程について

12 月初旬~中旬に開催することとし、詳細はメールにて調整することとした。

以上

平成 24 年 2 月 6 日

平成 23 年度 第 4 回工学部教育企画委員会 FD 部会 議事録

日 時： 平成 24 年 2 月 6 日(月) 9:00 ~ 10:00
場 所： 理工研棟 1 階 セミナー室 1
出席者： 渋川 (部会長), 柿崎 (副部会長), 加藤, 久野, 佐々木, 王, 谷治
重原副学部長
門平, 太田 (学務係)

審議事項

1. FD シンポジウムについて (次年度に向けての改善)

今年度の FD シンポジウムの出席者数が、教職員のほか学生 5 名を含めて 38 名であったことが報告された。昨年度の 40 名に引き続き、非常に少ない数字であり、来年度はより多くの教員を動員するよう努力することを申し合わせた。なお、各学科 0~4 名の出席者数であったのに対して、機械工学科は 19 名の出席があった。機械工学科加藤委員より、何度も学科教員に参加を要請したことが紹介されたのを受け、これを参考にして来年度の出席者数増加を目指すことにした。また、開催日を教授会が行なわれる日と同日にするなど、教員が出席しやすい日程や時間帯にするよう検討することとした。

2. オープンクラス実施状況について

授業参観アンケート提出状況について報告され、昨年度の 49 名から 60 名に増加したことが報告された。しかし、この増加分は昨年度の 4 名から 20 名に大幅に増加した機械工学科によるもので、他学科では大きな変化がないことが指摘された。来年度は、FD 委員が各教員の授業参観への参加とアンケートへの回答のチェックを徹底し、参加者数とアンケート回収率を高めることとした。

久野委員より、全科目を授業参観の対象とすると、参観者数が各講義あたり 1~2 名程度となり、参観者が誰であったかが分かるので自由な意見がいいにくい上、授業をする側も多くの意見が得られないので、期間を 1 週間に短縮して担当教員を隔年にするのが良いのではという意見が出された。これに対して、1 週間では都合がつかない場合があること、できるだけ多くの授業を参観して自分の授業改善に役立てることを主目的として全科目を対象にしたこと、授業を参観した教員数が少なかったことも 1 講義あたりの参観者数が少なかった理由のひとつであること、などの意見が出された。審議の結果、来年度も今年度と同じ方式で実施し、参加する教員数を増加させるよう努力することとした。

3. 授業評価報告書の作成について

渋川部会長より、柿崎副部会長の協力を得て作成した 2007~2010 年度の学生による授業評価の報告書案が提示され、審議の結果、現案通り承認された。これに佐藤学部長と渋川部会長の前文を加えて、工学部のホームページ上に掲載することとした。なお、学部内限定ではなく、外部からも閲覧できるようにすることとした。

4. ベストレクチャー賞の選考方法について

渋川部会長より、現行の評価点算出方法では、学生の出席回数による評価の重みづけになっておらず、出席率の低い授業は評価点が低くなることが指摘され、これを改善した評価点算出方法が提案された。審議の結果、改善案を採用し、「ベストレクチャー賞について(平成 19 年 9 月 3 日 工学部 FD 部会制定)」の「4. 評価点の算出方法」を以下のように改訂することとした。なお、これに加えて、本年度から変更された授業評価項目数に対応した変更も行うものとする(下線部が改訂部分)。

項目 1 から 12 までの平均点に、「あなた自身について」の項目中「授業にどれだけ出席しましたか」の問いに対して次のように重み付けを行い、評価点を算出する。

- 1) ほぼ全回 そのままの点数・・・a
- 2) 3/4 以上 点数の 8 割を考慮・・・b

3)3/4 未満 点数の6割を考慮・・・c

$$\text{評価点} = \frac{(a \text{ 平均} * a \text{ 人数} * 1.0 + b \text{ 平均} * b \text{ 人数} * 0.8 + c \text{ 平均} * c \text{ 人数} * 0.6)}{(a \text{ 人数} * 1.0 + b \text{ 人数} * 0.8 + c \text{ 人数} * 0.6)}$$

5. 「教育の質の向上に関する取組状況」への対応について

12月に教育・研究等評価室より報告された「教育の質の向上に関する取組状況－教育の向上・FD活動の推進に向けて－」を、今後の工学部FD活動にどのように生かしていくかについて検討した。その結果、この報告書はすでに各教員にpdfファイルとして配信されているので、改めて各FD委員より学科教員に対して、これに目を通し、授業改善に役立ててほしい旨を伝達することとした。

以 上